



## 薬局紹介 北秋田市立阿仁病院 薬局

薬局長 三澤 恭子

当院は、昭和 30 年病院として開設されました。過疎に伴う人口の高齢化が全国でも 1, 2 という特性を踏まえ、予防、治療、在宅医療と老人対策に重点を置いた地域密着型の医療を追究しております。病床数は、60 床、1 日の平均処方箋枚数は、110 枚前後です。



現在薬局は、私を含め 3 人で日常の業務を行っております。薬剤師は、私 1 人ですが、2~3 年で人事移動があるので、数年前から、全自動錠剤分包機を導入し、薬袋自動発行システム、(扇田病院、金谷先生から) 足軽君を利用させていただきできるだけ、業務の効率化を図っています。

外来業務の服薬指導は、すべての患者様にカラーのお薬情報とお薬手帳を使用して行っております。処方薬変更の場合は、ドクターとの申し合わせで記しを付けていただいています。また、レセコンの端末が薬局にありますので、内服薬だけでなく注射剤ほかの薬歴が一括検索できるので、患者様の納得がえられるまで服薬指導できるよう役にたっております。

平成 16 年から抗 MRSA 剤及第 4 世代以降の抗生剤に関しては、使用理由、期間、前薬など記載した使用届けをだしていただいております。

数多くの疾患を合併する高齢者が多く、採用薬は、800 種類位あります。年 4 回くらい簡易医薬品集を、また 2 年に 1 回医薬品集発行しています。予算がないので薬局のプリンターの両面印刷機能を利用して印刷し製本しますが、時間がかかり、どうにか短縮できないものか思案中です。

1 人薬剤師で多忙をきわめています。業務の合間にドクターと近くの介護施設

設に同行させていただいたり、IVH、や胃ろう増設、気管切開などの現場に立ちあわせていただくこともあります。勉強になると言ったら不遜な言葉ですが、調剤する上で、患者様の背景を知らねばという思いです。

また、病棟の注射剤は伝票の起票による箱渡しです。どうしても今の人員では、注射箋による交付はできないので、せめて過剰な在庫をふせぐために、月初めには、前月の保険請求分と起票分合計の金額比較表を作成し、各部署に配布しています。というのも当院にとって最大の問題は赤字で危機的状況にあることは隠せないからです。

色々業務が多岐にわたりますが、私たち薬局のスタッフがモットーとしているのは優しく、明るく、患者様のお役にたちたい、そういう気持ちで今日も頑張っています。

